



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



子どもたちに編み組みを指導する田中さん



弘道小学校での伝統的工芸品教育事業



平成15年にグッドデザインひょうご大賞を受賞した宮崎和子さんの作ったバッグ



杵柳細工の歴史が一目で分かる玄武洞ミュージアム内の豊岡杵柳細工ミュージアム

杵柳細工の伝統を守り伝え 地域の活性化を目指す元気人

杵柳細工の伝統を守り伝え、後継者の育成や児童・生徒などへの伝統的工芸品教育製作体験に力を注ぐ元気な男性を紹介します。

田中榮一さん(76歳)赤石

豊岡の伝統工芸を 守ることが天命

千数百年以上もの歴史を持つ豊岡の杵柳細工。しかし、約30年前から安価な中国製バスケット類の輸入が増え、技術者の高齢化も進み、一時は危機的状況へと陥りました。「豊岡に生まれ育った以上、豊岡の杵柳細工の伝統を絶やすことはできない」と思い、伝統の継承や後継者の育成などに乗り出したのは兵庫県杵柳製品協同組合理事長の田中榮一さん。

観光とは「光を観る」と

田中さんは、農家の長男として生まれ、農業に従事しながら青年団活動などに力を注いできました。さまざまな活動の中で「これからは観光産業が大切」と考え、昭和46年に玄武洞観光を立ち上げました。「観光とは『光を観る』こと。玄武洞や豊岡の良さ、杵柳製品の素晴らしさをどう観せるか、観光の原点を考えました」と当時を振り返る田中さん。そうした中、石や杵柳製品を集めて博物館を開設し、館内で編み組みの実演や販売を行いました。

豊岡杵柳細工が 「国の伝統的工芸品」に指定

「杵柳」とは言葉をとどろくと「コリヤナギ」のことで、円山川の水辺に自生するコリヤナギの皮をはいで乾燥させたものを編んで作ったものが杵柳細工です。柳行李やバスケットとして親しまれてきた伝統の杵柳産業は、豊岡で生まれ、但馬の風土で育ち、「かばんのまち豊岡」の基礎を築き、平成4年には「国の伝統的工芸品」に指定されました。

後継者不足が最大の課題

平成元年から県杵柳製品協同組合の理事長となった田中さんの最大の悩みは後継者不足でした。伝統工芸士を増やし若年化を図るため、平成2年から市の補助を受け、市内で「杵柳編み組み教室」を開始しました。「主婦の方がたくさん参加し、活気があります」と話す田中さん。今では、それらの方々が伝統工芸士となり、活躍するようになりました。



▲兵庫県杵柳製品協同組合理事長の田中榮一さん。渡し舟の船頭も務めます

伝統とは「革新」の連続なり

平成15年には、独自の編み方と高いファッション性を融合させた伝統工芸士・宮崎和子さんのバッグが、グッドデザインひょうご大賞を受賞しました。そして、平成19年には特許庁から地域ブランド「豊岡杵柳細工」として商標登録認定を受けました。「伝統はそのまま伝えても続かない。地域で創意工夫して時代の需要に応えられる『革新』が必要」と語る田中さん。今後は、16人の伝統工芸士とともに、「私だけの一品」という発想のもとでオーダーメイド化を図ったり、高級品としての地位を確立すべく、日本中を飛び回ります。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

5

竹野幼稚園

(竹野)

〈園児15人〉



竹野浜の近くに位置する竹野幼稚園。新緑美しい山々に囲まれた自然豊かな場所で、園児たちは元気に園生活を送っています。

5月6日、園にウサギがやってきました。ウサギと一緒に園生活に、園児たちは大喜び。その様子をのぞいてみました。

かわいいウサギが仲間入り!

「みんなと一緒に遊べるようになりました」と、先生が自宅で生まれた、かわいい4羽のウサギを連れてきました。黒いウサギが2羽と、白いウサギが2羽。早速、園児たちは名前を考えます。「白くて小さなウサギは、おもちゃちゃん」「黒くて小



なウサギは、チヨコちゃん。でも、残り2羽の名前は…。なかなか思い付きません。



やさしく抱っこ!! 難しいな!!

「おしりを持ってやさしくね」と、先生がウサギの抱っこの方法を教えてくださいました。恐る恐る触る園児たち。手が滑って(?!)、ウサギを落としてしまう子もいました。



新しいおうち。気に入ってくれるかな?

園庭のウサギ小屋がウサギたちの新しいおうちです。園の卒業生の保護者につ

餌作りも任せてね!

女の子たちは、ウサギの餌作り。ウサギの好きなキャベツやクローバーなどを切ったり混ぜたりしていきます。食べてくれるかな?



私たちの大切なお友達 これからも仲良くね!

「ウサギと友達になれて良かった」ふわふわして、温かかった」と、笑顔で話す園児たち。上手に抱っこができるようになったいな…。みんな優しい気持ちになりました。



笑顔の輪

健康にいいこと…大きく歌うこと! 「みんなで楽しく歌おう会」(竹野)

毎月2回(第2・第4木曜日)、竹野地区公民館から、聞き覚えのある歌が響いてきます。

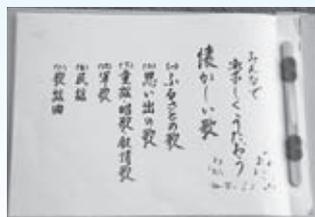
「みんなで楽しく歌おう会」は、その名のとおり、楽しく歌を歌おうという発想で活動を始めた団体で、20年近く活動しています。



▲大きな声で歌います

この会には、コーラス部門とナツメロ部門があり、女性ばかり約50人のメンバーは、日中に仕事がある方は夜のコーラス部門に、そうでない方は昼のナツメロ部門に参加しています。歌の種類は、ふるさと(地元)の歌から童謡、民謡、歌謡曲など、幅広く手掛けます。中には「お座敷小唄」の替え歌「ボケない小唄」などのユニークな歌詞も見られます。

歌の指導をする清水義春さん(竹野町竹野)は「全員で歌うだけでなく、腹から声を出すことで健康づくりに、歌詞を覚えることで認知症予防に役立ちます」と話します。また、会員のほとんどが「歌うことが好きで来ている」と仲間づくりに来ている」と声をそろえます。



▲手作りの歌詞本

月2回の活動だけでなく、但馬地域で開催される合唱祭や地元の芸能発表会などで歌声を披露していましたが、平均年齢も高くなり、出演できる発表会も限られてきた、との悩みもあります。新しい歌や今風の歌は、清水さんの指導とDVDカラオケ(歌詞の確認)で、短時間で覚えられます。今日も、思わず口ずさみたくなる歌が響いてきます…。